

第7回 (平成22年度第2回) 方法論パネル議事概要

日時：平成22年6月29日(火) 13:00～16:00

場所：社団法人海外環境協力センター会議室

出席者：水野座長、仲尾委員、橋本委員、吉高委員

欠席者：田上委員、山田委員

1. はじめに

第6回方法論パネルの議事概要について事務局より報告がなされた。

2. 既存方法論に対する修正提案に対する技術的検討(修正審議)

資料2「E004 廃食油由来バイオディーゼル燃料の車両等における利用(案)」及び参考資料2第15回認証運営委員会資料3-1「登録後プロジェクトへの活動追加に関する考え方(案)」について審議された。

資料2については、方法論E004におけるガソリンスタンドでの不特定多数への供給の場合に登録後の活動追加許容を適用するとの修正が承認された。参考資料2については、より一般的に適用できる内容とするため認証運営委員会において継続的に審議することが確認された。

3. 新規方法論(案)に係る技術的検討(方法論採択前審議)

資料3-1「オフセット・クレジット(J-VER)制度における対象プロジェクト種類の追加に係る意見募集の結果、資料3-2「低タンパク配合飼料利用による豚のふん尿処理からのN2O排出抑制(案)」について以下の確認がなされた上で、承認された。

- ・低タンパク飼料が開発された背景事情
- ・慣用飼料に替えて低タンパク配合飼料を使用することによる排出削減量の算定(N2O)式の妥当性
- ・飼料中に含まれる窒素量と、排泄物に含まれる窒素含有量の低減量の比例関係の妥当性

4. 新規方法論(案)に係る技術的検討(意見募集前審議)

資料4「方法論策定にあたっての論点」及び、個別提案として以下6件についてコメントが出され、対応について審議された。

資料4-1「廃棄由来のバイオガスによる、熱および電力供給のための化石燃料代替(案)」

資料4-2「ボイラー装置の更新(素案)」

資料4-3「コジェネレーション設備の導入(素案)」

資料4-4「熱源設備の更新によるヒートポンプの導入(素案)」

資料 4-5「空調設備の更新（素案）」

資料 4-6「ファン・ポンプ類の換装またはインバーター制御、台数制御機器の導入（素案）」

【コメント・対応提案】

資料 4-1：

- ・エネルギー利用されている場合には、利用にともなう排出削減分をベースラインから一定の割合で控除することとする。その際に使用するデフォルト値については、家庭系生ゴミに基づく試算結果からの数値を保守的に丸める処理を行ったうえで決定することとする。また、下水汚泥から回収される熱及び電気の試算結果については、調査のうえ国交省とも調整したうえでデフォルト値を策定し、今回の方法論パネルで検討する。

資料 4-2：

- ・法定耐用年数を超えてボイラーを使用することが通常行われているのであれば、何らかの方法で継続使用できていることを証明することでよいのではないか
- ・効率性については、当面 2012 年度までの対応として申請時のものを考慮する
- ・本方法論で対象としているのは効率改善が主。追加的に行われている省エネ技術の効果については経済的追加性のある技術を対象とすべき。
- ・キャパシティについては、改めて議論が必要である。

資料 4-3：

- ・本方法論はボイラーからコジェネレーション設備への更新であることが分かるように文章を修正すること。また、ベースラインとプロジェクトに使用される燃料種別についても明確化すること。
- ・当該設備で生産した電力については、コジェネレーション設備を導入した事業者によって自家消費されなければならない対象からは除外する。

資料 4-4：

- ・プロジェクトで電力が消費される場合のベースラインの求め方（ファン等の設備稼働にともなう電力消費も効率向上となってしまう）を議論できるだけの詳細データを事務局から提示のうえ検討することにする。

資料 4-5：

- ・資料 4-4 と同じ論点が発生することから、同じ扱いとする。

資料 4-6：

- ・ベースラインでのファン、ポンプ設備の定格電力消費量の算定においては、実測データがない場合は、定格出力の 8 割をベースライン平均負荷とする方向性で最終的には環境省で決定することとする。

5. 新規方法論提案状況と暫定評価に対する審議（方法論検討前審議）

検討候補となっている方法論を中心に、方法論の内容および状況を説明し、委員にコメン

トを求めたところ、候補になっている方法論を中心に検討することで了承を得た。

6. その他

今後の日程について、事務局より説明を行った。

以上